

新年のご挨拶

院長 木村 健二郎
副院長 小山 広人
副院長 日山 博文
統括診療部長 山本 雅人
看護部長 佐藤 美樹



vol.72
2020.1

JCHOだより
うえーぶ
Wave



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京高輪病院

医療連携・患者支援センター

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号
TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570
<https://takanawa.jcho.go.jp/>

病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。

新年のご挨拶

きむら けんじろう
JCHO東京高輪病院 院長 木村 健二郎



明けましておめでとうございます。

令和2年のお正月をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

当院は平成26年に「せんぼ東京高輪病院」から「独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 東京高輪病院」へ改組され、本年で7年目となります。その間、病院をとりまく環境は大きく変わりました。また、政府は医療政策においてすでに突入り今後さらに激化する少子高齢化社会に対応すると同時に医療費を抑制するという2つの相反することを着実に進めつつあります。そのような環境の中、当院における医療の在り方も変わることが地域から求められて来ています。

まず、平成26年10月に当院は急性期病棟49床を地域包括ケア病棟(回復期機能)に転換し、さらに昨年令和元年11月にはもう一棟38床を同じ地域包括ケア病棟へ転換しています。これにより、地域で在宅療養されている方や地域の急性期病院で急性期医療を終えた方を十分に受け入れることが出来るようになりました。急性期病床数は190床から144床に減りましたが、当院で急性期を脱した患者さんに地域包括ケア病棟へ速やかに転換していただくことにより急性期医療は縮小することなく質も量も維持します。このように、当院は急性期機能と回復期機能の2つを柱に地域医療に貢献する体制を整えたところです。地域における病院の新しい在り方を示すモデルになり得ると思っています。

病院の機能を十分に発揮するためには、病院と診療所・クリニックとの連携は当然ながら、地域における病院同士の連携も重要になってきます。地域の病院で急性期を脱したにもかかわらずすぐに自宅に戻れない方を当院の地域包括ケア病棟へ受け入れることも積極的に行っていますし、当院で治療を受けている患者さんが当院にない診療科(心臓血管外科、呼吸器外科、婦人科など)の治療が必要になった時には、当院から患者さんをそれらの病院へお願いすることもあります。また、がんの特化した病院との連携では、当院で循環器や糖尿病など生活習慣病に関する診療を担当することもあります。様々な形での病院同士の連携の可能性があるため、今後、病院同士のコミュニケーションを密にして地域のための連携の在り方を探っていきたいと思っています。平成30年6月に開設した訪問看護ステーションも今後の病診連携・病々連携を軸とした地域医療の推進に欠かせない存在になっています。

また、オリンピックを控え、訪日外国人が増えていますが、当院は外国人診療に対応するために「国際部」を設置し、公的にも外国人受け入れ施設として認められています。今後、この地域における外国人診療の重要性はますます増えてくるものと思っています。

このように当院は地域の皆様とともに地域の医療を発展させ安心して暮らせる地域作りに貢献してまいります。皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

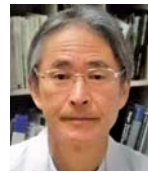
こやま ひろと
小山 広人副院長 外科／医療連携・患者支援センター長
医療安全・医療連携担当

明けましておめでとうございます。

令和2年を迎え、当院周辺では品川駅地区*高輪ゲートウェイ駅の開発も進み大きく変貌しています。JCHOの一員である当院は、地域医療機能推進機構に移管後7年となり、都心の国際化と高齢化に対応できるよう急性期・二次救急対応を維持するとともに、同時に回復期病棟を充実させて来ました。

都会に住む高齢者が急性期*回復期医療を必要とした場合には、身体機能の制約とともに、生活をとりまく老老介護、独居など介護・支援の問題を伴うこともしばしばであり、福祉・包括ケアとも連携して支えて行きます。当院は日々の活動を通じて医師会の先生方や訪問看護ステーション、救急隊さらに介護保険関係・区役所・保健所の方々とネットワークを築いて参りましたが、皆さまと共にこの港区*品川区において急性期・回復期医療の一翼を担えるよう職員一同努めます。

本年も宜しくお願い致します。

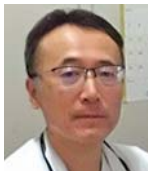
ひやま ひろふみ
日山 博文副院長 脳神経外科
救急医療・災害医療・感染管理・国際部担当

— 地域の外国人診療・災害医療の充実を目指して —

あけましておめでとうございます。年が明け東京オリンピック・パラリンピック開催がすぐ目の前に迫って来ました。期間中は多くの外国人が東京を訪れます。当院はその充実した国際部の活動により積極的に外国人患者さんの受け入れを行います。先生方のところで外国人患者さんの対応に困ることがありましたら気兼ねなく当院の国際部に連絡ください。

一方、このところの自然災害の頻発に備えて港区の災害医療の充実がはかられています。当院は災害拠点連携病院として病院前にテントを建て地域で発症した傷病者のトリアージを行い災害医療に積極的に取り組みます。その際医師会で当院のトリアージに登録されている先生方には大変なご苦勞をかけることとなりますがご協力をお願いします。

皆様にとって令和3年が良い年でありますように！

やまもと まさと
山本 雅人統括診療部長 内科・循環器
医療連携・患者支援センター 副センター長

新年、明けましておめでとうございます。

統括診療部長の山本雅人です。2004年7月に東邦大学大橋病院第三内科(循環器内科)より赴任して、15年間当院一筋に循環器及び一般内科診療を行ってまいりました。この間、多くの職員や地域の先生方、諸施設・諸機関の皆様方に支えて頂きましたこと心より感謝しております。

さて、私事ではありますが、赴任後、15年を迎えた2019年7月1日付で、当院統括診療部長を拝命致しました。内科診療のみならず病院全体、更には地域の医療を考えてより良い医療を行っていく所存です。当院医師の中では古株になってまいりました。長くいた分、地域の先生方と多く交流させて頂きました。気持ちの良い医療連携を円滑に行うため、直接先生方にお会いしてご意見を伺う機会を更に増やしたいと考えています。

今年は、東京オリンピックの年、国際部を持ちます当院が地域医療に貢献できる場面も増えるのではないかと考えております。昨年以上に頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

さとう みき
佐藤 美樹

看護部長



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、令和2年は、干支は最初のねずみになり、九星気学では七赤金星の年になります。ねずみは「子孫繁栄」の年と言われ、七赤金星は実りの意味が転じてお金等も表すそうです。そんな年に日本でオリンピックが開催されますので、かなり盛り上がるのではないのでしょうか。ラグビーのワールドカップに引き続き、外国からたくさんの方が訪れ、日本がまた世界から注目されます。しかし、医療の現場においては、外国人対策や診療報酬の改定が控えており、やや切迫感を感じている所です。今年も時代の変化や地域のニーズを把握し、職員一丸となって誠実な医療提供に一層努力してまいります。また、金銭のデジタル化や働き方改革が一層推進され、働き方の概念も変わってきています。超高齢化社会が進展し課題も多い中で、豊かな発想と創造的な看護実践ができるような人材育成にも取り組んでいきたいと思っております。

編集 後記

明けましておめでとうございます。オリンピックイヤーが始まりました。昨年は日本の何処に行っても外国の方が多く印象でした。それにより働く従業員の方も外国籍の方ばかり。商店街に響く呼び込みやアナウンスも多国語。60歳の脳みそには勉強よりもポケットクダなああと。使い方を間違えて、ぼけトークにならない様にしなすや。

(医療連携・患者支援センター 飯田一郎)